

## 《会議概要》

開催日時：令和5年7月26日（コロナ禍で開催できなかったため、令和元年以来、4年ぶりに開催）

参加医療機関：大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関（6病院）・地域医療機関（26病院）のうち、23医療機関が参加  
目的：外国人患者の受入れに向けた情報共有や意見交換、課題の共有等、拠点病院間の連携強化を目的に実施

## 《主な内容》

## （1）大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関・地域拠点医療機関の選定状況等について

令和4年4月から「大阪公立大学医学部附属病院」が拠点医療機関に、令和5年6月から「大阪府済生会中津病院」が地域拠点医療機関に選定されたことを報告するとともに、各医療機関に担っていただく役割等の説明を行った。

## （2）令和4年度に実施した外国人医療提供体制の強化の取り組みについて

令和4年度に「外国人医療対策会議」でご議論いただいた内容を踏まえて府で行った取り組みを報告。

- ・大阪府及び厚生労働省が提供する各種サービスの周知、「24時間多言語遠隔医療通訳サービス利用ガイド」の改定、おおさかメディカルネットの改定（精神科入院にかかる同意書の多言語版及び選定療養費制度の掲載）、「薬局での外国人対応マニュアル」の再周知。

## 《府への意見等》

○「おおさかメディカルネット for Foreigners」に掲載されている、外国人患者の受入れが可能な医療機関に連絡をしても、診療を断られることがある。過去に、診察する医師だけではなく、受付など医療機関全体で外国語対応ができる医療機関のみを掲載するよう整理したはずだが、改めて医療機関に英語で電話をかけてみて、本当に対応が可能か確認する等、何らかの対応が必要ではないか。

（府）⇒「外国人患者を受け入れる医療機関リスト」の整備については課題と認識。きっちり整理していきたい。

## （3）外国人患者受入れに係る意見交換

事前に回答いただいたアンケート（回答については別紙参照）を基に、各病院における好事例の紹介等を行った。

## 《各病院の取り組み事例の紹介》

## ○通訳者との連絡体制

- ・通訳者に携帯電話を持っていただくことにより、院内でいつでも連絡がつく体制を整えている。

## ○外国人患者受入れにおけるネットワークの構築

## 【近隣病院との連携】

- ・個々の病院で外国人患者対応に取り組んでいても、1病院で対応できることには限界があり、行き詰ることも多々あるため、近隣の5病院でメールや電話で細めに連絡を取り合えるネットワークを構築。院内整備の情報共有や診療科毎の患者受け入れの相談等、連携して外国人患者対応に取り組んでいる。顔の見える小さな単位で連携することで、気軽に相談や情報共有を行うことができている。

#### 【近隣クリニックとの連携】

- ・自院にない診療科の外国人患者を近隣クリニックに受け入れてもらうため、外国人患者の受け入れの可否を確認し、リストを作成している。なお、クリニックでは、受付での外国人対応ができないことが多いことから、問診票や日本の医療のかかり方のようなメモを作成し、患者に持参いただくなどの工夫をすることで受け入れいただいている。

#### ○未収金対策（デポジット制の導入）

- ・日本の公的医療保険に加入していない外国人患者が増えたため、未収金対策として、受付時に3万円を徴収している。  
なお、徴収する際には、外国語での対応ができない受付職員でも対応できるよう、公的医療保険に加入していない外国人患者用に丁寧な説明文書を作成し、読んでいただく（確認に10分～15分程度の時間を要する内容）ことにより、デポジットの支払いに応じていただけている。

#### ○外国人患者対応の院内フローの作成

- ・外国人対応は通常の対応とは異なるため、病棟スタッフから、受診から退院までの流れが分からないとの意見があったため、どのスタッフがどこまで担当するかを含めたフローの作成の検討を開始。  
日本の公的医療保険加入の有無、宗教、家族関係の把握から退院調整まで、クリニカルパスのように全体像が分かる物をイメージしている。  
各担当の役割が明確になっていないなどの課題が明らかとなり、フロー完成にむけて模索しているところ。

#### （4）その他

- ・日本医療教育財団より、今後、各病院で外国人患者受け入れのための体制整備をするにあたり、どのようなことから始めればよいかなどの情報提供をいただいた。
- ・府が提供する「24時間多言語遠隔医療通訳サービス」の受託事業者であるメディフォン株式会社より、サービス概要等について説明。
- ・府より、2025年大阪関西万博について、想定来場者数や会場内の救護所、感染症対策等についての情報提供。

#### 【宮川委員（オブザーバー参加）より】

ここ数年、コロナの影響により会議開催ができなかったため、拠点・地域拠点医療機関へのアンケートを実施し、各医療機関の状況を確認させていただいている。

本日の会議で医療機関が未収金問題で困っていることがよく分かった。未収金問題については、今後の対策が重要と認識しており、日本医師会でも6年前から未収金問題についての委員会を立ちあげ議論しているが、基本的に制度として国が動けることもほとんどなく、海外からの旅行者に海外旅行保険について加入を推奨しているものの実行性に乏しい状況。

「外国人患者を受け入れる医療機関リスト」についても、6年前から、医師だけではなく、病院全体で外国人患者を受け入れできない病院についてはリストに掲載しないよう整理されつつあるものの、見直しをやっていきたい。

外国人医療対策について、引き続き「外国人医療対策会議」でもしっかり議論していきたい。